

— 急増する「空き家」のマネジメント方策

# 「空き家」対策から利活用へー自治体住宅政策の転換

～人口減少・超高齢化時代の住宅セーフティネットー「空き家」利活用促進策とコミュニティ再生～

- 郊外(中小都市)の住宅施策の効果と補完戦略
- 空き家・空き地のマネジメント手法と自治体施策
- ストックとしての空き家利活用促進策と住宅市場
- [世田谷区] 空き家等の活用と住宅セーフティネット

【講師陣】

細野 助博 氏／中央大学 総合政策学部教授  
 角野 幸博 氏／関西学院大学 総合政策学部教授  
 米山 秀隆 氏／(株)富士通総研経済研究所 上席主任研究員  
 皆川 健一 氏／東京都世田谷区 都市整備部住宅課長

2013年7月3日(水) 10:00～16:50 私学会館・会議室(東京・千代田区)

10:00 ～ 11:30	>	<p><b>人口減少時代において求められる地域住宅施策</b> <span style="float: right;">中央大学 細野 助博 氏</span></p> <p>1. 人口減少時代に激化する都市間競争 ①生産年齢人口をめぐる獲得競争 ②年齢分布と財政力の関係                  2. 居住の個人的合理性と地域特性 ①居住地選択をめぐる外的要因 ②居住地決定をめぐる内的要因                  3. 郊外中小都市における住宅施策とその効果 ①都心と郊外の交通利便性 ②都心と郊外の人口構成                  4. 住宅施策を補完する戦略 ①家族モデルの変遷 ②価値観の変遷 <span style="float: right;">&lt;質疑応答&gt;</span></p> <p><small>略歴：筑波大学大学院社会学部研究科博士課程修了。95年より現職。97～98年 米国メリーランド大学大学院客員教授。公的役職として、財務省財政制度等審議委員、(一財)流通システム開発センター評議員、(公社)学術・文化・産業ネットワーク多摩専務理事、美しい多摩川フォーラム会長。学会役員として、日本公共政策学会元会長、日本計画行政学会専務理事、多摩ニュータウン学会名誉会長。</small></p>
12:10 ～ 13:30	>	<p><b>空き家の利活用促進策 ～その意義と自治体の役割～</b> (株)富士通総研経済研究所 米山 秀隆 氏</p> <p>1. 空き家の実態 ①住宅・土地統計調査 ②空き家実態調査 ③地域における実態調査                  2. 空き家率の将来展望                  3. 空き家対策の類型 ①危険な空き家の除却 ②ストックとしての空き家の活用                  4. 利活用促進策の意義と自治体の役割 ①空き家を活用した住宅市場の再構築 ②自治体の役割 <span style="float: right;">&lt;質疑応答&gt;</span></p> <p><small>略歴：1989年筑波大学大学院修士課程、経営・政策科学研究科修了。野村総合研究所、富士総合研究所を経て、富士通総研経済研究所上席主任研究員。2007～10年慶應義塾大学グローバルセキュリティ研究所客員研究員。著書に『空き家急増の真実』『少子高齢化時代の住宅市場』(以上、日本経済新聞出版社)、『図解よくわかる住宅市場』(日刊工業新聞社)ほか多数。</small></p>
13:40 ～ 15:10	>	<p><b>郊外住宅地における空き家・空地のマネジメント方策</b> <span style="float: right;">関西学院大学 角野 幸博 氏</span></p> <p>1. 郊外住宅地の類型別にみる課題：開発時期、立地条件、住宅形式、所有関係、居住者属性など                  2. 空き家・空地のマネジメントの方策と事例：用途の混在、建物の除却と跡地利用、異なる生活スタイルの導入など                  3. 自治体に求められる施策とその推進 <span style="float: right;">&lt;質疑応答&gt;</span></p> <p>郊外住宅地においても、増加する空き家・空き地対策は喫緊かつ構造的な課題である。子供世代が親の住宅を受け継いで継続居住する可能性は低く、専用住宅地としての持続を求める限り、住み替え支援政策の充実や中古住宅市場の活性化が不可欠である。しかしながら、ひとくちに郊外住宅地といっても、開発時期や立地条件、住宅形式、所有関係、居住者属性などによって、課題は異なる。場合によっては、用途の混在、建物の除却と跡地利用、異なる生活スタイルの導入なども視野に入れなければならない郊外も存在する。子供世代の住居が遠隔地化すると、不在地主の管理責任のあり方も検討課題である。本講義では、いくつかの事例をふまえながら、郊外住宅地の類型別に課題と政策の方向性を展望する。</p> <p><small>略歴：1955年京都府生。京都大学工学部建築学科卒業、大阪大学大学院博士後期課程修了。(株)電通、武庫川女子大学教授等を経て現職。工学博士。一級建築士。関西を中心に、都市再生やニュータウン再生等の調査研究、計画立案などに携わる。</small></p>
15:20 ～ 16:50	>	<p><b>世田谷区の空き家等の活用と地域コミュニティ</b> <span style="float: right;">世田谷区 皆川 健一 氏</span></p> <p>1. 世田谷区の空き家の現状 ①平成20年度住宅・土地統計調査について ② 空き家等の活用の政策的位置づけ                  2. これまでの世田谷区の取り組み ①住宅セーフティネットへの対応 ③ふれあいの家 ② 地域共生のいえ ④区への寄付物件についての対応                  3. 今後の展開 ・世田谷区空き家等地域貢献活用相談窓口の設置について <span style="float: right;">&lt;質疑応答&gt;</span></p>